

パネルディスカッション「研究データ管理をスタートするための最大の課題は？」

ポジショントーク 地域連携機関の立場から
ポリシー策定の次へ

三重大学

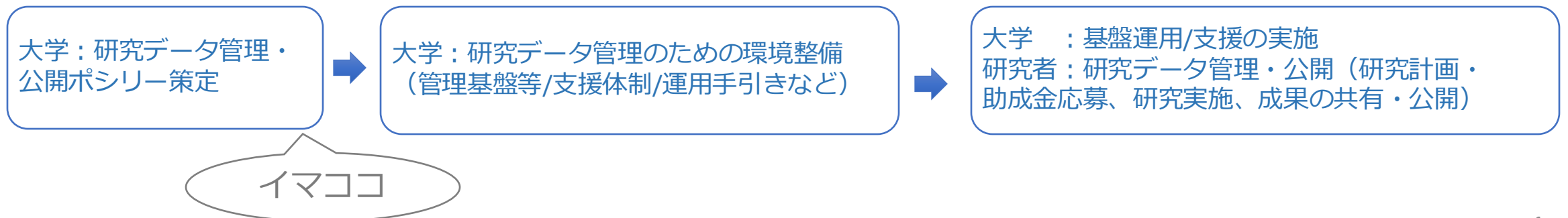
国際・情報部 山中節子

2024年10月9日（水）



三重大学の現在地

- 三重大学研究データ管理・公開ポリシー 2024.3策定（2024.4公開）
 - <https://www.mie-u.ac.jp/social-coop/original-research/policy.html>
- 組織：理事（研究・情報担当） --- 研究推進、図書館、情報
- 会議体：研究推進・社会連携戦略会議
- 研究データエコシステム構築事業との関わり：
 - 研究データエコシステム東海コンソーシアムに参加（2023年度-）
 - 運営委員会に参画
 - ポリシー策定にあたり研究データ管理スタートアップ支援事業の支援を受ける



1. 学内への普及

ポリシーにより大学が研究者に何をしてほしいのかを、端的に伝えることが大事
(そのための準備を行っている段階)

○施策上の整理

- 科研費等競争的資金の申請において求められていること（DMPの策定、オープンアクセス化）とポリシーで目指す適正な研究データ管理やオープンサイエンスの方向性の整理
- 公正研究（10年保存）と研究データ管理の整理統合
- オープンアクセス政策の動向と研究データマネジメントの対応

○大学が行う環境整備

- 支援体制の整備、研究データ管理基盤等の提供、研究データ管理の手引き的なものの作成

2. 地域における連携

これからの
課題

• 大学間連携は必須

構築事業に
今後も期待!

- 研究データ管理におけるベストプラクティスの共有やノウハウの交換
- 研究データに求められる世界基準のガイドラインや動向の調査や共有

• 地域企業や自治体との連携

- 三重大は地域連携が活発であるため、研究データに関しどのようなニーズがあるかの把握を丁寧に行いたい。
- 地域資料・調査データの活用と保存、シチズンサイエンスを見据えた研究活動の支援や、地域での知見の共有、地域社会への還元・普及に向けた協働体制を作ることも考えられる。



3. 持続的な仕組みとするためには

これからの
課題

研究データ管理が、論文作成のように研究活動の一環として当然になる時を目指し、データ作成～公開～利活用に係る仕組み作り、調査研究と共有が継続的に必要

○環境整備

実務的に必要

- ストレージ、データ基盤、リポジトリの維持・開発のための仕組み（予算含めて）
- 国内外の動向（学術的な側面、知財、及び外部資金の獲得を含めた政策面等）の調査研究とその共有

○教育研究現場への支援

教育機関として

- データの扱いに精通し、データの保存/公開について仕組みや支援体制を提供したらよい研究者への支援に加え、データの扱いに困っている研究者や学生への支援